

## 教科等研究会（中学校特別活動部会） 令和4年度 研究活動のまとめ

### 1 研究テーマ

**互いの考えを出し合い、尊重し合いながら合意形成する特別活動**  
～社会参画、人間関係形成、自己実現のねらいを明確にした集団活動の創造を通して～

### 2 研究経過

第1回			第2回			第3回			第4回		
期日	人数	場所	期日	場所	内容	期日	場所	授業者	期日	場所	授業者
6月 13日	9名	御船町立 御船中学校	8月 2日	各学校 (リモート)	上益城郡 生徒会 交流会	11月 11日	御船町立 御船中学校	浅見慎二 教諭	1月 31日	益城町立 広安小学校	岩崎太貴 教諭

### 3 研究の概要

#### (1) 研究の内容

##### ① 主題設定の理由

これからの子どもたちには、予測困難な社会の変化に主体的に関わり、豊かな感性を持って自分と周囲の人、各々の生き方を認め合いながら、よりよい社会、よりよい人生をどのように切り開いていくかを自ら考え、実践できる力を身に付けていくことが重要となる。

特別活動では、学級活動、児童会、生徒会活動、クラブ活動、学校行事等のよりよい集団活動を通して、学校生活を送る上での基盤となる力や社会で生きて働く力を育てていく。よりよい集団活動は、自分と異なる文化、習慣、生き方を認め合う土壌や協働性、集団への所属感、連帯感を育むことにつながる。それが学級文化、学校文化を醸成し、特色ある教育活動の展開を可能とする。

特別活動の目標に掲げられている「互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決する」よりよい集団活動の創造過程は、特別活動で育成する重要な資質・能力である「社会参画力」、「人間関係形成力」、「自己実現力」を実践的に身に付けていくための重要な機会となる。

よりよい集団活動をめざして、話し合い活動で合意形成された目標を基にして、一人一人が役割を分担する協働活動は、互いのよさを集団の中で具体的に生かし、個性と集団を伸ばしていく集団活動に他ならない。よりよい集団活動を創造していく活動を通して、「社会参画力」、「人間関係形成力」、「自己実現力」が育成されているかという視点を明確にもって実践していくことが不可欠である。

##### ② サブテーマ

##### ア 人間関係形成

人間関係を自主的、実践的によりよいものへと形成していくために、よりよい集団活動の中で、個人と個人、あるいは個人と集団という関係性を築いていくことが必要である。年齢や性別といった属性、考え方、関心や意見の違い等を理解した上で認め合い、互いのよさを生かすような関係をつくるのが大切である。

##### イ 社会参画

社会参画の意識は、よりよい学級・学校生活づくりなど、集団や社会に参画し様々な問題を主体的に解決していくために、自発的、自治的な活動を行い、個人が集団へ関与する中で育まれる。学校は一つの小さな社会であると同時に、様々な集団から構成される。学校内の様々な集団における活動に関わることが、地域や社会に対する参画、持続可能な社会の担い手となっていくことにもつながっていく。

##### ウ 自己実現

現在及び将来の自己の生活の課題を発見し、よりよく改善しようとする集団活動を通して、自己のよさや可能性を集団の中で生かし、試していくことで、自己理解が進み、自己のよさを生かす力、自己の在り方生き方を考え設計する力などが育まれる。

(2) 成果と課題 (○：成果 ●：課題)

- 生徒会交流会は、学校のリーダー同士で情報交換の場、生徒の視野を広げるきっかけ、参加者の自己肯定感を高める等、非常に教育効果が高い取組となっている。
- 小学校高学年と中学校、それぞれの学級会の活動を参観できたことで、それぞれの実態をとらえるよい機会となった。
- 学級活動の取組について、毎年の積み重ねを基に提案授業を実施しながら研究を深めることができている。
- 合意形成に向けた具体的な手立てについて、小学校、中学校それぞれの先生方と一緒に討議することで、具体的な手立て等、学びを深めることができた。
- 生徒会交流会は、リモートではできることが限られてくるため、可能な限り、会場に集まったの交流会の実施を進めていきたい。
- 建設的な意見の交換や、発表された意見に対する反応の仕方など、学級として日々の積み重ねをすることも大切だが、9年間を通して積み重ねるために、小中で連携した共通実践も視野に入れていくことができるように感じた。
- 学級会の議題を設定するにあたり、生徒が課題を自分のこととして捉えられるように意識づけを行うための手立てを研究していく必要性を感じた。

4 実践事例

(1) 生徒会交流会 (ZOOMを用いてオンラインで実施)

- 1、開会、挨拶
- 2、実践報告 (各学校の参加生徒より実践発表5分、他校の参加生徒より、質疑5分)  
嘉島中→御船中→木山中→益城中→甲佐中→矢部中→清和中→蘇陽中
- 3、参加者感想発表 (各校から代表者1名)
- 4、講評、閉会
- 5、事後活動：感想を記入し、本部に提出。全参加者の感想をまとめた用紙を本部より各校に配付

(2) 授業の概要

単元の目標	(1) 学級や学校の生活上の諸問題を話し合っ解決することや他者と協働して取り組むことの大切さを理解し、合意形成の手順や活動の方法を身に付ける。 (2) 学級や学校の生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践することができる。 (3) 生活上の諸問題の解決や、協働し実践する活動を通して身に付けたことを生かし、学級や学校における人間関係をよりよく形成し、他者と協働しながら日常生活の向上を図ろうとする態度を養う。																												
単元終了時の生徒の姿	学級会で合意形成したことを学級全体の課題と捉えると共に、学級における自己の役割を意識して、他者と協力しながら進んで活動に取り組むことができる生徒																												
単元を通した学習課題	1-4が学級目標に向かってよりよいクラスになるために、具体的な取組を実行しよう。																												
働かせる見方・考え方	よりよい学級づくりに向けた様々な問題を主体的に解決しようとするとともに、他者の考えを受け入れながら合意形成を図る。																												
生徒の実態	<p>■本時の活動にあたっての生徒の実態 ・学級目標の振り返りアンケートより。</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>学級目標「達成」度 仲間days</th> <th>学級目標「達成」度 体育大会</th> <th>学級目標「達成」度 1学期</th> <th>学級目標「達成」度 学習成果発表会</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>元気 85.7</td> <td>元気 92.8</td> <td>元気 90.2</td> <td>元気 93.9</td> </tr> <tr> <td>一生懸命 85.0</td> <td>一生懸命 97.4</td> <td>一生懸命 90.2</td> <td>一生懸命 94.6</td> </tr> <tr> <td>挑戦 82.1</td> <td>挑戦 86.2</td> <td>挑戦 86.4</td> <td>挑戦 89.9</td> </tr> <tr> <td>協力 89.3</td> <td>協力 95.4</td> <td>協力 92.4</td> <td>協力 93.2</td> </tr> <tr> <td>支え合い 84.3</td> <td>支え合い 91.4</td> <td>支え合い 88.6</td> <td>支え合い 89.2</td> </tr> <tr> <td>「達成」度 85.0</td> <td>「達成」度 94.0</td> <td>「達成」度 89.4</td> <td>「達成」度 94.5</td> </tr> </tbody> </table>	学級目標「達成」度 仲間days	学級目標「達成」度 体育大会	学級目標「達成」度 1学期	学級目標「達成」度 学習成果発表会	元気 85.7	元気 92.8	元気 90.2	元気 93.9	一生懸命 85.0	一生懸命 97.4	一生懸命 90.2	一生懸命 94.6	挑戦 82.1	挑戦 86.2	挑戦 86.4	挑戦 89.9	協力 89.3	協力 95.4	協力 92.4	協力 93.2	支え合い 84.3	支え合い 91.4	支え合い 88.6	支え合い 89.2	「達成」度 85.0	「達成」度 94.0	「達成」度 89.4	「達成」度 94.5
学級目標「達成」度 仲間days	学級目標「達成」度 体育大会	学級目標「達成」度 1学期	学級目標「達成」度 学習成果発表会																										
元気 85.7	元気 92.8	元気 90.2	元気 93.9																										
一生懸命 85.0	一生懸命 97.4	一生懸命 90.2	一生懸命 94.6																										
挑戦 82.1	挑戦 86.2	挑戦 86.4	挑戦 89.9																										
協力 89.3	協力 95.4	協力 92.4	協力 93.2																										
支え合い 84.3	支え合い 91.4	支え合い 88.6	支え合い 89.2																										
「達成」度 85.0	「達成」度 94.0	「達成」度 89.4	「達成」度 94.5																										

	<p>■考察</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「元気」「協力」「一生懸命」はコンスタントに9割をクリアできている。</li> <li>・「挑戦」については個人の要素が強いと共に、別途計画の全校集会の中で、各自の「挑戦」を実感させる取組が成される予定である。</li> <li>・「協力」ができていて「支え合い」が低い背景には、リーダーや委員会等、特定の役割を与えられた生徒からの呼びかけについては行動できるが、特定の役割がない状況で、互いに声をかけ合う等の協働について、積極的な生徒が小数である。</li> <li>・話し合いの活動で積極的に意見を伝え合おうとする雰囲気があり、司会の役割の生徒も学級活動、生徒会活動を通して経験を積むことができている。</li> </ul>
指導上の留意点	<p>①話し合い自体は生徒の主体性を尊重し、教師の声かけを舵取りの最低限に控えるようこころがける。</p> <p>②議題に、具体的な達成状況を示し、生徒が取組のゴールを実感できるようにする。</p> <p>③各自の積極的な発表を促すため、事前にワークシートに考えを記入し、小グループで意見を伝える活動を入れていく。</p> <p>④消極的な取組に決定しないよう、「時間軸」を視点とした決定事項の縛りを設ける。</p>
授業者自評	<p>今回のような形の「合意形成」を図る学級会の活動は2回目。</p> <p>今日の授業は、生徒から出された意見の中からの選択する形の合意形成の形になった。その中で、互いの考えを認め合う意識を持たせたかったが、「認め合い」を充実させるための具体的な手立てが、今回の授業の課題と感じた。「人間関係形成」の視点で考えても、特定の生徒の意見を否定する姿が見られ、日常の人間関係のもつれがそのまま授業に表れてしまっていた。</p> <p>一部の生徒が、それぞれのよさを認めた意見を言っていたので、その考えをどう引き出せていたのかを振り返ってみたい。</p> <p>議題については、学級目標の自己評価で数値が低かった「支え合い」の項目に視点を絞った。「挑戦」の項目も低いが、学校全体として取り組んでいく予定があることと、個人の頑張りより、学級全体の頑張りにつながりやすい「支え合い」を議題にした。</p> <p>益城中の佐藤先生の取組から、学級会を中心とした学級活動の姿を学んだので、それを少しでも自分の実践に取り入れていけるよう、今回の提案授業を基に、今後につなげていきたい。</p>
協議より	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な学級目標への振り返りが学級の課題把握につながっていた。</li> <li>・自分の考えを持たせるために、時間軸を視点にしていて、生徒の思考を手助けできていた。</li> <li>・司会者が、席を回することで、ワークシートに書かれた意見を見て、発表を引き出すことができたように思う。</li> <li>・反対意見を出す際に、「意見の否定」は「人の否定」ではないことを押さえておく必要があったように思う。また、否定だけではなく、代替案を出すようアドバイスする。</li> <li>・クラスの課題を自分事として考えさせる意識づけが必要である。</li> <li>・話し合いにおける合意形成について、今後も研究を進める必要性を感じた。</li> </ul> <p>「建設的な意見の出し方」について、継続した指導を行う必要がある。</p>
まとめ 清和中学校 梶原校長先生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いの視点が明確なので、自分の意見に確かな根拠を持って話し合いに参加している生徒が多かった。</li> <li>・「継続」「単発」「条件」という時間軸が「多面的・多角的」に考えるきっかけになっていた。</li> <li>・自分事として合意形成に参画している。</li> <li>・学級の様子として、集団決定への意欲が高い。</li> <li>・これからも定期的に振り返りを行っていくことが、自己肯定感を高める取組となる。</li> <li>・「〇〇さんの意見は魅力的です。さらに～を加えてはどうでしょうか？」など、アサーティブな意見発表のスキルを身につけさせることも、建設的な話し合いの手立てになるように感じた。</li> <li>・数値上は、「支え合い」の値も充分高い。子ども達の中で、その結果になっている理由を考え、共有できていれば、もっと意見が出しやすかったように思う。</li> </ul>

(3) 展開案

本時の目標 議題の解決に向けて、互いの意見を尊重しながら合意形成を図ることができる。  
 本時の展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される生徒の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図、内容、方法等)
導入	10分	1 本時の議題、役割を確認する。 ①議題の確認	○議題、役割を確認する。
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <b>【議題】</b> 2学期の残り1ヵ月で、学級目標の「支え合い」を90%以上にするための、具体的なクラスの取組                 </div> ②役割：司会、副司会、記録 ◇司会、副司会：代議員 記録：代議員の指名 ③話し合いに向けて教師より	○学級会に向け、前時にワークシートに考えを記入させておく。 ○「継続的(K)」「単発(T)」「条件発動(J)」の「時間軸」について自分の考えを分析させ「継続的」を優先させるよう説明する。
展開	30分	2 多数の意見を発表させ、集約する。 ①事前に記入したワークシートを中心に、意見を発表する。 ②「時間軸」を視点に、分類して意見を板書する。	○発表が滞ったら、小集団での相談時間をとる。 ○発表者と記録者で、「時間軸」を確認しながら板書させていく。
		3 提案された意見を基に、結論について合意形成を行う。 ..... <b>【期待される学びの姿】</b> ..... 他者の意見を尊重しながら、根拠に基づいた意見を発表できている。 ..... ◇継続的に取り組める活動については、このような理由で、この取組がいいと思います。 ◇単発で取り組める活動、条件で取り組む活動については、このような理由で、この取組を入れてもいいのではないのでしょうか。 ◇賛成です。なぜなら・・・ ◇この意見について、この部分は賛成ですが、このような場合はどうしましょう？	○自分の意見については根拠を伝えさせるようにする。 ○主張の際に、他者の意見について、否定ではなく、質問をさせるようにする。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <b>【具体の評価規準】</b>                      学校生活充実に関心を持ち、集団生活のルールを設定することができている。(態)                      (方法：ワークシート、観察)                 </div> <b>【到達していない生徒への手立て】</b> ・できるだけ意見が発表できるよう、事前にワークシートをチェックして、発表を促す。 ・必要に応じて小集団で相談させる。
終末	10分	4 本時の結論を確認し、本時の感想を記入、発表する。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <b>【まとめ】</b> 本時の結論                 </div>	○継続的に取り組める活動を1つ、必要に応じて単発で取り組める活動、条件で取り組む活動について結論を確認する。

【板書計画】

T	K	結論	J	T	K	提案	議題
J							2学期の残り1ヵ月で、学級目標の「支え合い」を90%以上にするための、具体的なクラスの取組